



甘利山の魅力を現代に伝える

綾棒踊り



ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）として登録された南アルプス。その一角を担っている甘利山と機織で使う綾棒を使って踊る綾棒踊りには深い関係があります。

「ひとつとのーえ さんのえーひとつ審判 甘利山山論さわぎを お聴きやれ」からはじまる20番までの歌詞を持つ綾棒踊りの歌ですが、甘利山の資源をめぐる山の境界争いの様子を伝えていることが分かります。

境界争いは実際にあった話で、文化13年（1816年）に甲府で裁判となり、最終的に安政6年（1859年）に江戸幕府が甘利三ヶ村に所有権の正当性を認めて一件落着きました。その裁判の間に歌舞伎の「白木屋お駒才三」の歌詞を替えて歌い踊られるようになったのが綾棒踊りです。歌だけでなく、江戸時代の古文書にも、興味深いものがあ



ります。天文14年と書かれた古文書には、甘利山の正当な所有権が甘利三ヶ村であることを証明することが記されています。このような証明書を創ることが必要なくらい激しい争いが甘利山をめぐる繰り広げられており、昔から、甘利山一帯は資源の豊富な魅力的な山であったことを歌・踊り・古文書は伝えてくれます。

綾棒踊りの歌は、大正時代のはじめ頃までは頻繁に歌われていたようですが、その後途絶えていました。しかし、昭和30年頃に当時の甘利小学校の佐藤八郎校長先生によって復活し、今に至っています。

現在、綾棒踊りは無形文化財として甘利小学校の児童を伝承者として伝えられています。毎年秋に開催される「武田の里にらさき・ふるさとまつり」でも「甘利っ子」たちが綾棒踊りを披露しながら会場を踊り歩きます。甘利山の魅力を伝え続けている踊りを是非ご覧ください。

（記事・文化財担当 関岡）

国勢調査への回答はお済みですか？



10月1日を基準日として、すべての世帯を対象に「平成27年国勢調査」を実施するため、9月中に調査員が各ご家庭を訪問し、関係書類を配布したところです。今回より、回答方法が、インターネットと紙の調査票への記入のいずれかを選択できるようになりました。インターネットでの回答を行わなかった方は【※インターネットでの回答は9月20日で終了しました】、調査票での回答が必要ですので、配布された調査票にご記入し、訪問する調査員にお渡し下さい。なお、調査票が届いていない方は、お手数ですが企画財政課までご連絡願います。

■問い合わせ 企画財政課企画推進担当（内線 355～357）

●市の人口 9月1日現在	(前月比)
男 : 15, 210人 (うち外国人 175人)	15人
女 : 15, 430人 (うち外国人 261人)	17人
計 : 30, 640人 (うち外国人 436人)	32人
世帯数: 12, 462世帯	9世帯

●国民健康保険より
9月に韮崎市国民健康保険で支払った額（保険者負担額）は、154,105,008円（前年同月比 3.30% 増）で、1人あたりの保険者負担額は、19,686円（前年同月比 6.25% 増）でした。引き続き健康に気をつけ医療費の節約にご協力ください。